

— 広告 —



三ヶ山 優斗 (みかやま ゆうと)  
金沢工業大学  
情報フロンティア学部  
経営情報学科三年  
滋賀県 近江高等学校出身

法人の経営や戦略、DXなどを担当するコンサルタントをめざして、着実に歩を進めるのが三ヶ山さんだ。二〇二二年、慶應義塾大学SFC研究所が全国の大学院、大学、高等専門学校、高校を対象に開催した「データビジネス創造コンテスト」では、初めての応募で堂々の優秀賞(二位)に輝いた。

今回の同コンテストのテーマは

## 「まず動く」で見つけた 法人コンサルタントの道。

「モビリティデータが創るスマートシティ」で、三ヶ山さんはクラスメートの水野智章さんと、提供されたタクシー乗降に関する四十五万件の膨大なデータの分析から、高齢層の客の多さに着目。利用の際に感じる不便やストレスを把握するため、高齢者とその家族へのヒアリングも独自に行った。

「調査から、高齢者の多くが目

的地までのルートの説明が苦手なこと、家族は病院や施設の送迎車でないタクシーだと、「いまだこにいるのか」「乗って迷っていないか」との不安があることが分かりました。そこで、課題を解決するためのアプリを提案することにしました。

二人は、スマホ画面に行き先を表示して運転手に伝え、家族も高齢者の乗車状況や位置をリアルタイムで確認できるアイデアを考えました。アプリの運用で期待される高齢者のタクシー需要の増加、開発にかかる投資と費用回収の見通しも計算し、審査員から「社会ニーズを捉えた仮説の設定、家族の視点も取り入れた素晴らしいビジネスプラン」と高く評価された。

コンサルタントに向けて一直線の三ヶ山さんだが、高校時代、卓球で国体やインターハイにも出場し完全燃焼した後、新たな目標が見つからず悩む日が続いた。そんな彼にKITを選んだ理由を聞くと、

「担任や信頼する先生に『面倒見のいいKITなら、必ずやりたいことが見つかる』と励まされたから」と屈託なく笑った。

そして、入学して実感したのは、「先生の多くが一を聞いたら五、十と返してくれ、新たな情報と出会いの広がり」にワクワクする自分がある。経営情報学科の先生には、「ビジネスコンテストに参加してみないか」と次々に声をかけてもらい、モットーの「まず動く」で奮闘するうち、いつしかコンサルタントの道が目の前に見えていた。

現在、簿記二級の検定合格をめざして勉強し、四年次には中小企業診断士に挑戦したいという。「高校の恩師のアドバイス通りの大学です」。自身の将来に焦燥を募らせた当時の彼とは別人の、明るい声が陽だまりの教室に響いた。

### 金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七一  
電話番号(〇七六)二四八二〇〇

KIT  
キャンパス  
レポート  
文・杉村裕之